平成 29 年　3　月　7日

研修報告書

氏名：水上　都

所属：札幌医科大学

研修期間：平成29年3月6日　～　平成29年3月7日

研修場所：信州大学医学部附属病院遺伝子診療部

研修内容：

月曜午前：検査提出症例検討会、NGS/CMA validation meeting

午後：ID(小児知的障害)外来、夕方：出生前診断遺伝カウンセリング

　夜：IDミーティングに参加

火曜終日：遺伝子診療部外来、夕方：遺伝子診療部カンファレンスに参加。

研修成果：

　信州大学では外来を受診された患者さんの遺伝学的検査を自身の大学で行い、結果の解釈もされており、検査結果、その解釈方法について学ぶ機会をもてたことは非常に有意義であった。特に、カンファレンスにおいては検査内容と結果についてアカデミックな議論がなされており、拝聴しているだけで、遺伝学の基礎を学ぶことができたような気がした。これまでは遺伝学的検査を民間か研究機関に委託し、解釈までしてもらい、その結果を再度検討することはあったが、基本的にはそのまま患者さんに説明することが多かった。今回信州大学で研修するまでは、遺伝学的検査が他の多くの生化学的検査と異なり、結果の解釈が難しいことは理解していたつもりではあったが、実感できていなかったことに気付くことができた。また、遺伝子診療部外来、ID外来に陪席させていただき、先生方、認定遺伝カウンセラーの方々の丁寧な診療に触れることができ感銘を受けた。やはり一般的な外来診療と違い、遺伝外来においては、「ヒト」をみることが必要であり、それにはある程度の時間が必要であると感じた。時間を割いて、ご本人、ご両親のお話しを聞き、的確に専門的なアドバイスをし、結果の説明をされていて、遺伝カウンセリングとしても学ぶことが多かった。また大学病院という環境を生かし、積極的に横断的診療の構築に尽力し、遺伝子診療部がハブ役を担っており、見習いたいと思った。しかし、遺伝子診療部門のニーズが高まるに従い、患者さん、クライエントさんがどんどん増えてくると、物理的に時間、担当者の不足という問題が出てくることは容易に想像がつき、先生方のご苦労も垣間見えた。また日常診療でお忙しい中、研究にも熱心に取り組んでおられて、今後の医療、患者さんのために身を削って取り組んでいる姿に、医療人としての基本的な姿勢を教えていただいた気がする。今後の自身に求められていることを肌で感じることができた。

その他（感想・要望・反省点、等）：

　当方の都合で2日間という研修期間とさせていただき、ご迷惑をおかけしたが、短期間でも快く受け入れてくださったことで、今後短期間を数回にわけて研修させていただきたいと思うことができた。また、今度は実際に自分の手を動かして遺伝学的検査を実施し、結果の解釈も研修させていただきたいという気持ちが出てきた。福嶋先生、古庄先生を初め、信州大学の先生方が、2日間であってもより濃い研修になるようにと、なるべく外来やミーティング、カンファレンスの多い日程を提示してくださり、盛りだくさんな2日間を過ごすことができた。信州大学遺伝子診療部、遺伝医学・予防医学講座の皆さまには大変親切かつ丁寧なご指導を賜り、後進を育てようという温かく熱心な心に触れることができ、感謝の言葉しかない。この場をお借りし深く御礼申し上げます。有難うございました。